



教育学部

教授 坂下 玲子さん (保健体育科教育)

Sakashita Reiko

## ●プロフィール

1978年 福島大学教育学部入学  
 1982年 筑波大学大学院入学  
 1985年 熊本大学教育学部赴任  
 2008年 熊本大学教育学部教授

## 自分の変化を楽しむ

教育学部小学校教員養成課程・中学校教員養成課程等で、体操とダンス等の実技指導と保健体育科教育を指導されている坂下さんは、福島県会津若松市のご出身です。

「将来は小学校の先生になりたい」と、地元、福島大学教育学部に入学。中学・高校・大学と、ずっと新体操を続けてきた坂下さん。「各種大会に出場し、好成績を残したい」と、上を目指し練習に励む毎日でした。「練習を通して新しい技術を習得し、自分の体や動きが変わっていくことを体感できるのが楽しかった」と。

## スイスの世界大会に参加

1980年、大学3年生の時に転機が訪れました。新任の先生との出会いから、ワールド・ギムナストラダ（世界体操発表会）の存在を知ります。1953年に始まったこの大会は4年に1度開かれていて、ヨーロッパを初めとした世界各国の参加者たちが採点競技ではない体操やダンスを発表する世界的な体操の祭典です。次回が1982年、チューリッヒ（スイス）大会だと聞き、「ぜひとも出場したい」と思うようになります。そして、筑波大学大学院に進学し、在学中にワールド・ギムナストラダへの参加を果たします。開催地のスイスには、子どもから大人まで幅広い世代のクラブチームや大学が集い、それぞれが楽しんで演技を披露する様子に坂下さんは感銘を受けます。「それまで、スポーツはレベルの高さを競うものとはばかり思っていました。勝敗や競争以外に、楽しむ世界があったことを目の当たりにして、それは本当に新鮮な驚きでした」。

参加者のみならず、観客や街を挙げての楽しげな様子も印象的で、「スポーツは一部の人のためのものではなくて、どんな人にも楽しみや喜びを与え、生活や人生を豊かにする」ことに気づかされます。そして、体操やダンスの奥深さをもっと勉強したいと思うようになったそうです。

## リズムカルで全身的な動きを心理面から分析

「大谷武一の体操論とその影響についての一考察」「リズムカル・ムーブメントにおける美的体験についての検討」（共著）等の論文をまとめられている坂下さん。

2005年には「子どものボディセンスを伸ばす本」を山海堂から出版されています。現在は、数値で表すことの出来ない体操やダンスの動きの質を動作分析や心理面からの分析など、「多方面から“動きの世界”に迫ってみたい」と目を輝かせます。私たちは運動することによって、達成感ばかりでなく、人との関わり方を学びます。運動には、子どもたちの社会性や感受性を育てる側面があるのです。小学校の先生になるのではなく、子どもたちを育てる教育者を指導養成する仕事に就かれた坂下さん。

「人生、何が起こるかかわからない。私もそうでしたが、生きていく中では色々な所に分かれ道があります。そんな時、人任せにはしないで、自分で自分の道を選び取って欲しいですね」。若い人たちに向けて、そんなメッセージをいただきました。



第50回熊本県学校ダンス発表会にて、学生とともに(2008年2月)

動きの楽しさと美しさを伝えたい。